

## 第4回まちづくり検討委員会議事録

と き：平成21年11月5日（木）13：30～15：45

ところ：市役所2階第3会議室

### 1. 開会

○ 市民協働推進課長 あいさつ

○ 会 長

本日の案件は2つ、前回最後のほうで少し議論になったが、地域自治組織が必要な理由、端的に言えば、メリット、デメリットについて深掘りをしていこうということと、地域自治組織について、どんな形・スタイルが望ましいかということについて、更に深めていければと思う。

いよいよ今回から本格論戦みたいな形になるので、忌憚なくご意見をいただきたい。それと同時にそれぞれの御所属の組織に少しずつお伝えいただいて、必要ご意見はこの場にお持ちよりいただければありがたい。

では、資料1について、事務局から説明をお願いします。

### 【事務局】 資料1 説明

○ 会 長

今の事務局の説明には前回の議論の中身を踏まえているところや、これまでの鳥栖市の考え方の整理と言うものもある。また鳥栖市に限らず一般的にあちらこちらの自治体や国で議論されている内容というものも情報として提供していただいている。

それはそれで良いけれど、うちの場合はどうなるのということになるので、今日はいい意味でエゴを出していただくというか、お互い自分のところではこの辺りはいいが、このあたりは困るというところを率直に考えていきたい。

地域自治組織が鳥栖市の場合は、既存の各種団体があるわけですが、新たな枠組みであったり新たな組織であったり、プラスイメージでの新たに必要な訳、意味合いと、いや困りますねというところを率直に意見を出し合っていきたい。

どなたか、口火を切っていただければ・・・。

○ 委 員

そのまえにちょっと、消防団とは関係ないが、私二十数年間バドミントンで子ども達を指導しており、あちこちに試合に行くが、先日宗像に行ったところ、大会の申込先が市の教育委員会だったのが、NPOになっている。質問の回答もNPOがやっている。これが市民協働なのかと、2、3日前に気づいた。

消防団としては、先日幹部会でこんな流れができていたという話をした。私もあまり把握していないので、皆が納得できる説明はできなかったと思うが、一応話した。

まだそれに対する反応もないが、消防団としては、今までの公民活動に対しての協力はおのこのやってきたと思う。運動会のときは、消防のPRをすとか地域の活動には結構協力をしてい

と思う。こういうことになって消防団がどういう形で入っていけばいいのだろうかという思いがある。こういう形で入っていくということをみんなに言わないと、みんなの意見は集約できないと思う。

今まで消防団は公民館活動に縁遠いところであったし、最初に言ったとおり、なんでここに消防団がいなければならないかという気持ちは未だにある。

私たちはボランティア活動でありながら、火消しとか災害など何か事あれば、危険を顧みず出て行くという精神を蓄えている団体である。一方で自主防災が新しい組織に入って、地域活動に取り組むのは当然だと思う。消防団がこれに入らなければならない理由が見つからない。

今までどおり公民館活動には協力できる範囲で協力しているし、やる気があるところは、地域のゴミ拾いをする消防団もある。全然しないところも地域によってはある。そういう中で消防団が新しい組織に入る入らないの方向性はつかめていない。ただ、私が納得しないと皆さんにこうしようということが言えないので、急速に勉強していきたい。

○ 会 長

今の消防団のお話は、率直に役割がよく見えないというのが一番大きいようだ。

○ 委 員

そこに入って消防団は、何をするのか。例えば、宗像に書いてあったゴミ分別などを消防団にしてくれとは言えない。そこに入って、こういうことをやってほしいという役割があれば、それをみんなで判断したいと思う。このような活動に参加したことがなく、呼びかけがあれば、加勢するという団体だし、また各責任者は信念を持っているので、取りまとめるには、消防団がこのコミュニティに入って何をするのか、どういう役割があるのか、そこを明確に把握したい。それがないと、行こう、止めようという判断は求められない。

○ 会 長

消防団をいかに勧誘できるかということがひとつ大事なところのような・・・。

○ 委 員

皆さんと一緒にやろうということになれば、会議に出して協議したいと思いますが、協議する材料がまだない。

○ 会 長

消防団は行為自体が、火が出れば行くという、事あればの「事」がないので、出ようがないというのが率直なお考えかなと、とても分かりやすかったと思う。

○ 委 員

今の状態では、幹部にこういう流れがあるという報告しかできず、説明ができない。「何をするのか？」と聞かれると「分からん」というしかない。

○ 委 員

先ほど言われた自主防災は、消防団がリードしてほしい。

○ 委 員

自主防災組織ができるときに言われたことが一つある。自主防災は、消防団には関係ありません、と言われた。はっきり言われた。消防団とは関係ないので、消防団は入らないでください、と言われている以上、その後の訂正文もないので、協力する気もない。だから自主防災にはほと

んど協力していないと思う。

○ 委 員

今後自主防災組織に消防団は絶対に必要だと思う。地区の公民館は市指定の避難場所になっており、町区の公民館が補助的、臨時的に避難場所になっていて、それをまとめながら指定場所にお送りするなど、そのときにどうしてもお願いしたいのが消防団の力だ。

○ 委 員

自主防災は作った、お金ももらった、でも基里地区を除いて活動していない。消防団は関係ないといわれた。この話はみんなはっきり知っている。

○ 委 員

そのあたりは、今からの問題だろうと思う。

○ 委 員

自主防災を消防団に世話しろと言われれば、みんな喜んでやる。

○ 委 員

あれだけの馬力のある若い方が団員としておられるわけだから、それに協力していただくのは最大の・・・。

○ 委 員

最初に「関係ない」と言われているので、消防団は自主防災に一切口を出さないということを建前でやっている。今からでも自主防災をやってくれと言われれば、やりますよ。女性消防団が自主防災で消火器の扱いとか救急救命のほうで協力しているが、現時点で消防団が自主防災に正式に出て行くというのではないと思う。あつたら、私がやかましく言う。

○ 委 員

平成23年に義務化される火災警報器について、たまたまうちの分団長が佐賀に行ったら、安くできるし、民生委員か区長が立ち会ったら独居老人宅にもつけてもいいと言ってもらったので、区長会でも取組みの話が出ている。基里地区は自主防災組織を10町区全部立ち上げているが、消防団にお願いすると言っていないのは事実。だからまちづくりの中では、自主防災組織だけでなく、それから派生する大きな仕事に関しては消防団に役割の一部をお願いしたい。

○ 委 員

先日幹部会でその話は聞いた。絶対利益を取らないということを書いていた。以前消火器を扱った分団があったが、市民からの反応は、「消防団はいくら儲けているの？」という中傷というか噂話があり、消防団は利益も取らずに一生懸命やっているのに・・・、ということで、商売にかかることは消防団では一切止めることになった。今回の基里地区の分団長は、話を聞いて、やらないといけないと思ったようだが、他の分団長さんはあまり興味を示さなかった。

○ 委 員

火災警報器ひとつとっても、消防署では紹介はするが、そのあとは皆さんでやってくれと言われる。区長としては、親身になってやっていただくパイプがほしい。

○ 委 員

旭地区では消防長が婦人会にもちかけ、火災警報機を婦人会が扱った。コミュニティ化して、そういう流れになれば消防団が協力するのはやぶさかではないが、今までの流れがあり、自主防

災には消防団は関知しないでくれと言われていた以上、口も出さないが、設立に協力してくれと言われれば、どれだけでも協力できることはある。

○ 委員

その辺が希薄化かな。

【事務局】

自主防災と消防団の話は聞いています。このコミュニティの話は、皆さん協力していただきまして様々な課題にあたっていただきたいと言うのが主眼でありますので、その辺りについては幹部会に出向きまして、総務課とも協議していきたいと思えます。

○ 委員

新しい組織を立ち上げる時にどういう問題点があるか前回触れたが、立ち上げる時に最初から〇〇部会と設けるのは大きな問題かなと思う。基里10町区では青少年育成など各々の部会をほとんど網羅しているが、「部会」というものを立てていない。その中には消防団や民生委員、子どもクラブがいる。いろいろな人が入って区長指導の下に活動している。それを地区でまとめた時、いかに10町区が連携をとっていかというのが最初の具体的な仕事になるのではないかと。モデルにある部会にどのように移行していくか、そのリーダーは各10地区の区長さんをお願いしたい。10人いれば2人ずつ5つの部会にあてがって、あなたはこれを中心に10町区まとめてほしい、そのような出方をして行くのはどうだろうか。はじめに部会ありきでいくのではなく、現在の組織を、時間をかけながら集約していくほうがいいのではないかと。区長をカバーできるような民生委員などを中心として、徐々に部会を形成していくほうがうまくいくのではないかと。そのあたりを時間的に猶予していただきたい。連携をとるためには、何か代表をしている人がいいのではないかと。例えば老人会会長や分団長や公民館長。

○ 委員

基里は特にまとまりがすごい。消防団の行事には基里地区は区長さんが必ず応援にみえる。

○ 委員

それは色々お世話になっているという感謝の気持ちから。

○ 委員

鳥栖地区は北と南に分かれているが、消防団はひとつ。区長さんとの関係はほとんどない。こちらから区長会から離れた経緯がある。団員募集のときをお願いに行くくらいで区長さんに頼みに行くことはない。

○ 委員

一本杉区は自主防災訓練の組織図を4年前に作った。訓練を既に2回実施した。麓の分団から指導に来てもらった。

消防法や建築基準法や条例などで義務付けられて火災報知機とか消火器とか各家庭に備え付けなければならないが、妙な業者が来てよくないもの売りつけられたら困る。消防署を通じてそういうものを買えと安心する。

○ 委員

消火器の例をさっきは出したが、いろんな意見が出て、やる気がなくなってやめようとなった。

○ 委員

老人は聞きにくる。過去においてだまされた人が結構いる。こういうものは、消防署にいつて聞きなさいといっている。そういう意味では、消防団は新しい組織に必要だ。

○ 委 員

ご要望があれば、やる。ご要望がないだけ。地元の消防団に言ってもらえば、動くはず。

○ 委 員

老人クラブの話をするが、市老連の考えはどうか聞いてくれと言うことだったので、10月15日に理事会を招集してもらい、過去3回の会議の内容、宗像市への視察について報告をした。

ただ内容を検討するといっても具体的には何一つない。素案ひとつ出ていないので、今のところ何もいえない。ただ、コミュニティを作ることについては、市老連は賛成だ。新しい自治組織は今既存のものをごちゃごちゃするよりも、無いものと仮定して市民のために必要なものは何か、それぞれの組織も当然必要だし、取捨選択しながら新しい組織を作ればいい、というのが老人クラブの見解。それと行政のほうから今までの組織に出ている助成金などの情報はほとんど知らないで、公開すべき。77町区あるうち、老人クラブは40地区しかない。増やしたいが増えない。人材がいなかったか金がないからできないなど理由がある。そういう状況なので、老人会が増えるように活発に活動できるよう推進をしていただきたいという希望が出た。

自治組織をどうするかについては、具体的にどうするか案が出てきて一つひとつをたたいていかないと計画はできない。色々な意見は出ているが周辺をたたいて肝心要のところが出てきていないから、目的が不明確と前回の会議で発言したのは、私。作るなら作るとまず決める。どういうものをつくるかということを検討していかないとこの委員会は成り立たない。

○ 会 長

新たに新組織を作る効果として、高齢者に対してうそ偽りのない確実な情報を届けられることがある。あの団体から言ってもらったほうが確実だ、などそういうことは見えるかなと思う。

○ 委 員

交通対策は、交通指導員と安全協会と交通対策協議会の3つがバラバラに活動していたため、話が見えず困り果てていたが、自分のところは区長さんと話し合っ、安全協会と交通対策協議会の2つを一緒にしたところ活動しやすくなった。一緒にすれば、2度手間はかからない。

防犯を立ち上げたが、資金がないので、個人の車を使ってガソリン代から何から完全ボランティアでやっている。他の団体から支援してもらえればやりやすくなり、助かる。

○ 委 員

各校区で金額は違うが、区を通して交通対策協議会にお金がいっている。今後は一本化して、コミュニティ化すると、大きな区の中に入ってうまく活動できる。

○ 委 員

今までは3つバラバラで、どこから、いくら援助してあるか、お互い知らなかった。

○ 委 員

民生委員には市民協働課から来ていただいて取組の話をしてもらっていた。今回どうしたら良いのかということをお互い考えてきていて、協力していくべきだろうという意見が多かった。7校区あるので、既にある公民館を利用してはどうだろうか。また会長になる方には、大きい権限を与えた方がしやすい。そのためには、常勤で指導力がある人を出して協力することを第1に考

えるべきだ。任命するところが違う、という話をもちかけたが、それは構わない、協力すべきと皆さんおっしゃった。

ただ2年ほど前に鳥栖市と市の社会福祉協議会で福祉の計画書をつくって各町で取り組んでいるところもある。それをどう活かしていくかが課題。新しい組織を作ることに反対はなかった。

鳥栖市は地区公民館の中に地区社協を作ってそれなりに活動しているので、そこをどう協力するかという話も出た。

#### ○ 委員

地区社協としては地区社協会長会の中に入り込んではおらず、先日のアンケートの結果をコーディネーターに対しては話している。会長達や常務には話していない。18日の研修時にコーディネーターからどういう意見が出るかはこの次の26日に報告する。

#### ○ 委員

公民館は館長会にだけ話した。各地区にある公民館がコミュニティセンターになるだろうけど、老人福祉センターと離れているところもあるので、その繋ぎをどうするのかという問題がある。

それと公民館運営委員会を各地区持っているが、その中には消防団以外のある程度の組織の代表が入っている。これをもっと細分化して他の団体をもっと入れていくのかが問題。

また老人会や婦人会にしても各町区にあるわけでもないで、各町区にそれぞれつくっていかなければならないだろう。その場合に区長会を通さないと全ては動かない。組織の母体になる区長会と腹割って話していかないといけない。宗像を真似ても上手くいかない。鳥栖は鳥栖方式でやっていく事が大事。この会議と平行しながらそろそろ各組織と話を進めていく必要がある。

#### ○ 委員

実は私は婦人でありながら婦人会を知らなかった。婦人会館があることも知らなかったし、婦人を対象に交流があったことも知らなかった。情報公開もされていないし、外から転入してきた人は婦人会に入れられないという不文律があったりしたようで、婦人会が何をやっているのかわからない。JA婦人会とまた違う。知らないことが多い。コミュニティのなかで情報公開されていくと、入会する方も増えるだろうし、自由な選択ができる。

先ほどの消火器のことにしても、もうそろそろ来るんじゃないのというものが来ないままになっているものがある。私たちは頼りにしているのに、わからないまま。新しく組織を作りなおすというよりも、新しいコミュニティでみんなが協力していこうということを早く情報公開してやっていかないと1、2年は良いけどそれから先は元に戻る。なぜかと言うと心が伝わらないから。

#### ○ 委員

区長が召集してコミュニティについて説明会で話を進めることも必要だろう。例えば婦人会という組織は今完全な崩壊状態。家庭崩壊が進んでいる今、全町区に婦人会の力が必要だと膝を突き合わせてやっていかなければならない。その集大成がコミュニティセンター。今の公民館が拠点になるならば、中核として部会が大事な役割を担う。

PTAや子どもクラブも一緒。世話をしたくないから出たくない。くじ引きで当たった人がやる。意識がなくてやるから通知を出しても、割り振りしても出てこない。

これをつくるならば、そういうところからしっかり膝つき合わせてやっていかなければコミュニティセンターはまわっていかない。地域や組織体がまわっていくためには、いろんな組織体に

呼びかけて、それぞれの活動を充実させていく方法をとるべき。今は青年団がない、BBSがあっても誰が活動しているのかわからない。各町区でそのような組織を調査する必要がある。

○ 委員

なぜ潰れたのかというのを調査しなければならない。婦人会、青年団も各町区にあった。なんでもつぶれていったか検証しなくてはいけない。現状で作ろうと思っても無理。

○ 委員

社会情勢が変わってきて、サラリーマン化してきた、よそに勤めに行くようになった。そういう余裕がない。しかしボランティア意識を持つ者が必ずいる。一人からでもいいからつくっていく必要があると思う。

○ 委員

その中で消防団が残ったのはすごいと思う。消防団は自分の手にはもらわないが、活動費をもらっている。消防団はボランティアではない。ボランティアという名目でタダ働きさせるから人は離れていくのだと思う。ご苦労さんを何かの形で示さないと……。ボランティアといっても誰もついてこない。ボランティアという言葉は嫌いだ。

○ 委員

ボランティアにも無償と有償がある。極端なことを言うと、囑託員も有償のボランティア。若葉のコミュニティセンターは名前こそコミュニティセンターだが、館長は若葉地区の人ではない。最初は若葉地区の人を館長にしていたが、4年で辞めさせられて、市の60歳過ぎたOBの天下り先となった。若葉だけは公民館と老人福祉センターとの複合施設だからかどうか知らないが市の職員の天下り先。果たして、それでコミュニティセンターができるのか。

○ 委員

田代地区では公民館長は区長会が推薦することになった。問題があったのは旭と麓。老人福祉センターと一緒にだからそうなったのだろうが、若葉コミュニティセンターでは地区のことがわからないと務まらないとご本人が悩まれた。本音をいえば地域の情勢がわからないとできないと本人も言われた。

○ 委員

まちづくりになってくるなら、若葉のコミュニティセンターや老人福祉センターの所長のあり方を変えて考えないといけない。もちろん老人福祉センターも含めてどうあるべきかということ考えたとき、ここまですべて出てきているが、4ページの構成員が相当抜けている。色々なNPOもあるし、婦人会に変わる食生活改善推進委員のメンバーなども多いので包含していかないと。ただどういう問題があるかということ。人事の問題もしかり。もっと言えば公民館主事も65歳までの公募をしているが、一般公募を止めて地元の人をもっていかないといけない。地域で頑張ってくれる人。65歳までが限度というのもおかしい。

民生委員を区長が推薦するのも反対。生き字引みたいな人を75歳で辞めさせるのもおかしい。辞めたらなぜ区長が推薦するの？推薦された人を審議するのは別組織で、未だかつて否決されたこともない。

○ 委員

少年補導員もしかり。

## 【事務局】

そのあたりの改革の余地は充分あると思います。区長推薦が過去に多くありますが、これからは、このまちづくり協議会の中で人選を考えていただくというイメージを持っています。

### ○ 会 長

これまで打ち立ててきたルールで、それぞれでやってきて役割が重なってきているので、一度ゼロにしてルールも一度ガラガラポンするといい。人選はどういうルールとプロセスでやっていくとか役割はどう再配分するとかは、今までの個別の組織だったらできないが、新しい組織と一緒にやると、初めて可能になる。

### ○ 委 員

組織構成員間のパイプはいくつあるか？私なんかはみんな繋がっている。特定の間は繋がって、大半は繋がっていないというのが「希薄」。自発的なパイプを持つのがコミュニティの目的だと思う。

### ○ 会 長

「ボランティア」という言葉の使われ方を危惧しているので少しお話したい。「ボランティア」という言葉の中に、「ただ」とか「安い」という意味を込めて使っている人がいる。

ボランティアの語源は、ラテン語で「V o l o」という「喜んで〇〇をする」という動詞だ。特徴は命令形がなく、他人から言われてすることがないので、自発性。もともと償いを求めているので、無償性。だから、ボランティアに対して指示命令をすることは、なじまない。

これに親戚のような言葉で、「M a l o」で「仕方ないけどやる」、「N o l o」で「いやいややる」というものがある。

地域の役員などの最初のきっかけは、「M a l o」だったり、「N o l o」だったりするが、やっていくうちに「N o l o」が「M a l o」にそして「V o l o」になっていく傾向がある。

自発性というものは、やりたい事をやる、やりたくないことはしない、言われなくてもするけど、言われてもしない。決めるのは全部自分自身。「言われなくてもする」に期待されるけど、実態は「言われてもしない」。これが無関心に繋がっていく。「やらない気がして」というのもあり、Aをしている間はBのことはやらない。婦人会をやっている人が正直なところ社協まで目が届かないのは「やらない」ところに自発性を発揮しているから。そのような人たちを繋げて結ぼうとしたら、一人が複数のことに関心を持っている状態を作らないと、なかなか連携が進まない。区長とか公民館長の役割が大きくなるのは、否応なしにそういう人たちが目の前に現れるから、せざるを得ない。そのうち「知ってしまったからにはほっとけない」という状況になる。それだから知らないという状況は怖くて、知ってしまうとせざるを得ない状況が生じて、自らの自発性が喚起されていく。ボランティアの自発性とは、知らせて自発性を誘発する自発性だったり、「あの人が頑張っているから私も頑張ろう」と他人の自発性を励ます自発性であったりする。

またボランティア活動を「奉仕活動」と訳すことがある。「奉仕活動」を英語に訳すと「コミュニティサービス」でボランティアとは違う「サービス」。夕方の商店街で「ご奉仕品」としてかご1杯いくらといってサービスする、あの感覚が奉仕活動。奉仕とは「奉り仕える」と書くが、何かのために、誰かのために我慢しながら禁欲的にやっていく、それこそ「M a l o」だったり、「N o l o」だったりする。ところがボランティアとは自発性だから、「この街をどうにかしたい、



あのおばあちゃんを助けたい、子どもたちをすくすく育てたい、けど誰も何もしない、ほっとけない、どうにかしないといけない、誰もしないのか、もう我慢できない、それだったら私がやる」というのがボランティア。だから我慢できないから自ら手が挙がってくる姿を見て、英語では「志願する」という意味もある。

またボランティアは昔の志願兵。軍隊では徴兵された人と自ら志願した兵士の戦い方が違うと言われる。徴兵は雇われだからいやいや行っている。志願兵は自らこの国や地域を守るため自らの意思で戦っていく人達。ちなみに「ボランティア」から派生した言葉に「自生植物」というものがある。

ボランティアに自発性を期待するのはいいが、無償性に期待されると「タダ」とか「安い」という考えが来る。無償の「償」は、償いなのでもともと出てくるタイミングが違う。「時給いくらで」とか「弁当あげるので来て下さい」というように、先に何か出すというのは、給料の「給」。支払能力があれば有給で、無ければ無給。最初から支払を約束してお願いするのは有給ボランティアいや有給スタッフと言うべき。もともと「無償ボランティア」と言わないのは「無償無償」言っているようなもの。たまたま無償の反対語として有償ボランティアと言う言葉が出てきた。「有償ボランティア」という言葉も違うのでは、と思う。

一方、償いで何か出すとするならば、「今日は来てくれてありがとう、ゴメンね、せめてもの償いで・・・」とって後から出てくるもの。「交通費くらいで」とか「お茶飲んで帰る？」とか「弁当食べて帰る？」とか、「ゴメンね」「ありがとう」という言葉と一緒に後から出てくるもの。だからせいぜい実費弁償まで。明確なガイドラインはないが、お金を出す意味合いの中に労働の対価というものはない。

委員の皆さんの団体の中では色々なお金の出方やこれまで経緯などがあるだろう、自発的にせざるを得ないことや、言われてやってきたところもあるだろう。しかしここで気持ちも自発性をリセットしていかないと、私たちの街を自発性のある街にしていけるかとか、後から入ってくる人たちに対して、そういうものなんだよというものを語り継いでいかないと自発性というものは、継続していかず、担い手の確保もできない。

他の地域でよくありがちな例で、何かくれないと行かない、という人が増えている。私は「ちょうだいなボランティア」と呼んでいるが、最初に手が出る。予算も最初に弁当代やジャンパー代が計上される。ちょっと考えられない。確かに先立つ経費は必要。一回出し始めたら、出し続けられないといけないので、自分の支払い能力に応じたやり方をしないと、「なぜあの時は貰えたのに今回は貰えないの？」と組織崩壊の原因へと繋がっていく。

#### ○ 委員

4ページの宗像の組織図のように商工会や伝統芸能伝承組織など網羅していくべき。

#### ○ 会長

お互いのことを公開していないとか、知らないということが危ない。お互いに開き合って繋がっていくことで、世の中が変わっていったことがいっぱいある。車椅子の人達の移送サービス、バリアフリーや臓器移植、骨髄バンク、平和運動、ホームヘルプ事業もそうで、開き合ってパブリックになって、繋がって世の中が変わっていったことがいっぱいある。お互いが持っていることをいかに開き合えるか。今のように議論することもひとつ。状況を共有しあわないとどうにもな

らない。自分のところは自分のところとって閉じてしまったら、前回の骨粗しょう症状態になってしまって、ひとり寂しく亡くなっていく人が出てくる。これは避けなければならない。

○ 委員

今の公民館では知らないことがいっぱいある。組織を網羅しないとコミュニティセンターはできない。校区でできるものはコミュニティセンターで、そこでできないものは市にあげるというように、行政のスモール化が目的。

○ 委員

私は各委員さんのように組織に所属している立場ではないので、ご苦労されていると感じた。

前回の会議で新しい自治組織の可能性を否定しているわけではなく、情報の共有を図って意思決定をしていけばいいが、この場におられる方とか皆さんが所属されている組織は高い意識をもたれる方々の集まりだからできていっているのだろう。意識の高い人、自発性の高い人は放っておいても行動される。

だから、そういう意識を持たない人、そういう意識を持っていてもできない人を組織していく必要がある。情報を共有すれば意識は上がっていくのかなと思う。それこそ今日の会議の中でも自己決定と自己責任について、往々にして権利は主張するけれども権利行使する上での義務を負いたくない人が多い。また自己決定したけれども決定した結果が悪いと責任転嫁の風潮がある。自己決定と自己責任は表裏一体であるということの認識と自己決定できるシステム作りが必要。自己決定できない人たちの自己決定できるシステム作りが必要と感じた。

○ 委員

民生委員になって初めて自分が住んでいる町を意識し始めた。地域にかかわることをしなければ公民館に行かなかった。地域のために何か役に立つんだという意識をもたせるためにも情報公開して自分も何かできるということを思わないとどんなに新しいものができても同じ。

○ 会長

前回の会議の最後のほうで私のほうから仮に組織を作るのであれば、その目的、何のために作るのかについて、

- ① 一時的な行政及び行政区のスリム化
- ② 10年後の高齢化を乗り切る
- ③ 地域のつながりを強化して「モレ」を少なくする

の3つを申し上げた。皆さんのお話を聞いていると、お互いの状況を知らないという状況を打破するためにまず集まらなければならないと感じ始めている。今までの背景、経緯、歴史、状況を打破しないと、また小さな箱の中に入って、一人で悩んで、孤軍奮闘、孤立無援になり、限界集落化してしまう危険性を感じている。そのためにも、まずは一緒にやろうという方法で考えると、いけるのかなあと感じている。うちの団体はOKだ、とか役割を明確にしてくれれば動きようがあるという団体もある。

今日は、まだお二人の方が欠席ですので、ジャッジする状況ではないが、そんな目線で資料2を見ていただければ、と思う。それでは事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

資料2 説明

○ 会 長

まずは中身について何か質問はないか？

○ 委 員

「行政の発行する文書等の配布業務」を委託することは嘱託員の業務を廃止すると考えていいのか？

**【事務局】**

そこまでは具体的に考えていません。ただ現在自治会組織を利用して配布しているので、市報などは全市民に配布できていません。自治会に入っていない人たちのために公共施設に市報などは置いています。市報くらいは全世帯に届かなくてはいけないのかなというイメージを持っています。一つの策としてコミュニティに頼むのかあるいは業者に委託するのか、検討してみたい。

○ 委 員

市報は全世帯に届いていないの？

○ 委 員

そんな話初めて聞いた。

○ 委 員

区費を集めて用務員（配達人）を雇う。用務員には区費を払っていない人まで届けなきゃいけないのかという思いはある。だから区に入っていたらどうか、いつも議論している。

○ 委 員

市としては区に入っていない人たちのために、別に配布するようなことはしていないのか？

**【事務局】**

今までは、市報は公共施設に置いています、という逃げ方をしています。それでは持ちこたえ切れないだろうという認識を持っています。数年前から選挙公報はポスティングシステムを利用していますので、市報をそのように配布したほうがいいのか、新しい組織で配っていただけるのか、検討をしてみたい。

○ 会 長

相当難しい話で、かたや行政は公益を担保しないといけないので全部に一律にやらないといけないという義務を負っている。一方自治会は、自発性を建前としているので、強制的にやっているわけではない。払ってもらっている区費は、互助会費みたいなもので、会費を払っている人にはサービスする。市役所職員の中に郵便局のように配布する職員がいればいいけど、そのためだけに職員を雇うのかという話になるので、皆さんのご協力でやっています、ということになる。昔のようにほぼ100%近い人が加入していればよかったが、今は抜けモレが出てきている。今後ますますそれが広がるであろう。最近マンションやアパートの建設の際、業者や施主を呼んで、マンション、アパート共益費の中に区費を織り込んでくれれば建てていいというように条件付けしているところもある。

○ 委員

区長（嘱託員）が自治会未加入者のアパートなどに市報を置く箱に市報を届けても、誰も持っていかない。次に持っていったとき前回のそっくり市報を回収して帰る。市民という意識がない。

○ 委員

区費は払ってもいいが、区役やボランティアには出ないという人が多い。アパートなんかは2ヶ月から3ヶ月で居住者が変わる。前回区費をいただいたので訪ねると違う人が住んでいる。

○ 委員

新しい組織ができて、そのような現状は変わらないのでは？

○ 委員

だから皆さんとのパイプをつなげるようなコミュニティ、組織が必要。

○ 会長

自治会の加入率70%がコミュニティを作って100%に劇的に上昇することはない。ただ何もしなければ加入率はますます減ってっていく。コミュニティを作ることで、少なくとも減少を防ぐあるいは維持する効果は期待できる。

○ 委員

そうしないと10年後が切実な問題。隣保班は20あるが、ほとんどが65歳以上。

○ 会長

そういった高齢者の情報を聞くと、社会福祉協議会や民生委員の方々からの情報がますます必要になってくる。私たちが向き合う方々は子供が少なくなって、高齢者が相対的に多くなるということは人口動態を見ても明らかになっている。そこをどう手を打って、抜けモレを無くしていくのか。また皆さんが「知らない」とか「そんなはずじゃなかった」というのをどう解消していくのか。提示された支援策を単に受けるだけでなく、また役所が何かしてくれるからというのではなく、われわれがやりたいと思っていることに支援策をどう活かしていくのか。そんな見方で見て行ってほしい。

これからはどんな枠組みをどうつくっていくのか、具体的な検討に入って行く。まだする・しないの方向性をジャッジしているところではないが、具体的なことを見ながらたくましい結論にもっていくことができればと思っている。

今見ていただいた、特に5ページ以降をまた持ち帰って検討していただき、次回中身をどうするか具体的な議論に入って行く。状況を開き合う（公開し合う）なかで、齟齬やギャップが少しでも少なくなればありがたい。

今日の議論で、一言ずつ感想をお願いしたい。

○ 委員

皆さんのご苦勞が良くわかった。

○ 委員

自分の思ったことが述べられて、よかった。

○ 委員

別にない。最初に具体的に検討しようと言ったのに、結局2時間何も進んでいない。

○ 会長

確におっしゃるとおりだと思う。私がこういう時間を取りたかったのは、共有できていないと、空中分解を起こす恐れがあって、それを避けたかった。

○ 委員

話し合いをしていく中でいろいろな問題が出てくる。相手を説得したり、自分が引いたりするうちに形ができてくる。それをせずに今日みたいな会議をすると、第1回から第4回まで一步も進んでいない。

○ 委員

私はそうは思わない。他の団体のことが分かっていないということが分かったのが収穫だ。

○ 委員

意見を述べ合っているのは結構だけど、やると決めたのなら、どういう形でやるのか入っていないかなければならない。

○ 会長

次回からは絶対に具体的な話しか伺わない。やる方向でいいかは、2人欠席しているので決を採っているつもりはない。次回意思決定をするという了解が取れば意思決定する。

○ 委員

そのように望む。

○ 会長

団体をまとめきれないとか、意見を調べきっていないとか、表示できていないとかの意見があったので、待たせてもらった。待たずに進めてしまうと、「拙速だ」といわれるのが嫌だった。ある街で嫌というほど見てきたので……。だらだらしているように見えるかもしれないが、この時間が大事。今までは役所が「こうする」といって終わりだった。それでいいのであれば、この委員会自体いらなないと思っている。役所を信じて役所の言われたとおりにやればいい。それで10年後は大丈夫なのか？ご理解いただきたい。よろしく願いたい。

○ 委員

今日の収穫は何のためにつくるのか、その目的であるところの、「ボランティア」の意味を説明していただいただけで十分だ。

○ 委員

会議をする度に難しい部分が出てきたし、今後も出てくると思う。最終的には目的を決めて、それに邁進しなければならないと思う。

○ 委員

いろいろな意見がそれぞれのセクションから出てきている。こういう動きがあって、それについてはこうだと、そろそろ投げかけて、意思の疎通を進めていかなければならないかなと思っている。

○ 委員

資料1の3ページ「笑顔広がる文化・交流・共生のまち」というスローガンは、市報などに載っているか？

【事務局】

掲載していますが、理解するのはなかなか難しい。私も今のセクションに来て一生懸命勉強し

ている、というのが正直なところです。

○ 委員

立場が違うとそういうこと。ネットワークが取れていないということ。ネットワークをどう取っていくか、それがコミュニティセンター。それが取れなければ破壊だ。

○ 委員

私としては他の団体の動きを把握しているつもり。これを持ち帰って、どこが必要・不必要なのか、きっちり提案していきたい。

ただ包括的交付金については、じっくり検討したい。町区に対する補助金はいくつもあるが、バランスをとっていかに配分していくのが重要。次回までに私なりのとりまとめを作って意見を出していきたい。

○ 会長

今回は具体的に入っていく。全員が出席して、方向性の決を採ればありがたい。ヤマ場になると思う。

本日はありがとうございました。

(終了15:45)